

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年3月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200390
法人名	社会福祉法人霧島会
事業所名	グループホームうさぎ
所在地	霧島市霧島田口193番地1 (電話) 0995-57-3031
自己評価作成日	令和2年3月8日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームうさぎは自然豊かな霧島連山の麓に位置し、ふきのとうやわらびなど、沢山の自然の恵みを頂ける環境にあります。地元のお米や野菜はとても美味しく、毎日食事でお出しできることに感謝しています。

職員の年齢は30代から70代と幅広くお互いに得意分野ごとに力を発揮しながら支え合って日々ご利用者の支援に励んでいます。また、職員の半分が事業所の近隣に住んでおり、事業所と地域とが顔の見える関係を築いています。ボランティアに來られたり、面会にこられたり、慰問があったりと日常的に交流があります。

設備に関しては浴室にリフト浴の設備があり車椅子の方が安全に浴槽に浸かることができ、不安なく入浴を楽しめています。また、建物周囲を赤外線センサーで囲い、出入りの際センサーが反応して音が鳴る為、独りで外出することを防いでいます。

同法人は特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業所、デイサービス、訪問介護事業所、軽費老人ホーム、地域包括支援センター支所を運営しており、関係機関と連携をとりながら長年、地域の介護相談窓口として高齢者福祉に携わっています。グループホームでは終末期支援体制がないため同法人や関係機関と連携をとりながら、終末期の支援につなげています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、霧島神宮駅から約1km程離れた幹線道路沿いに平成24年に開設されており、少し離れて小・中学校、霧島市役所支所、霧島郵便局、商店等が立ち並んでいる。ホームの広い敷地には樹木や草花が植えられ、利用者が四季を感じながら平穩に過せる環境である。

開設以来、地域との交流に積極的に取り組んでおり、地域の情報を把握して文化祭の見物や毎月の清掃活動等に参加している。法人主催の夏祭りには多くの地域の人々の参加があり、自主事業の「おうちごはん会」にも毎回10人位の高齢者が出席されて、手工芸や昼食を楽しみながら交流している。縫製等のボランティアも定期的であり、友人知人の來訪や散歩、買い物時の会話、農産物を頂く等の交流は、利用者の楽しみとなっている。「まちかど相談所」の設置や認知症サポーター養成講座の開催等、地域貢献にも努めている。

管理者及び職員は、独自の理念をホーム内に掲示し、朝礼での唱和や意見交換等で周知に努め、利用者の尊厳や想いを大切にしながら「目配り、気配り、心配り、笑顔の挨拶」の姿勢で、平穩な暮らしの支援に取り組んでいる。利用者や家族からの要望等に対しては、申し送りや職員会議等で協議して改善を図っており、家族との信頼関係が築かれている。職員の勤務体制は担当ユニットを決めず、2ユニットでのシフトとしているため、利用者全員を熟知して支援している。

看取りは実施していないが、入所時に利用者及び家族にホームの対応を説明して理解を得ている。利用者の状態が概ね介護度4になった頃から、主治医の意見を得ながら終末期に向けての選択肢を紹介する等、利用者、家族が不安にならないような支援に取り組んでいる。

管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、気軽に意見を言い合える関係を構築している。職員の意見や個人的事情等に十分配慮しながら、サービスの向上や働きやすい職場環境の整備に取り組んでおり、ケアに対する助言・指導やスキルアップを図る研修の実施等に努めている。来年度、外国人の就労も予定されていることもあり、施設内研修の有効な取り組みについて検討中である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の意識付けのため朝の申し送りの最後に理念を唱和することを行っている。実践につなげていく努力をしている。	理念に「利用者と向き合い、利用者の毎日を大切にしながら穏やかに暮らせるように支援」を掲げ、ケアの姿勢「目配り、気配り、心配り、笑顔の挨拶」も定めている。ホーム内に掲示し毎朝の唱和や職員会議等で振り返りや意見交換を行って、理念の共有とケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎月1回「おうちごはん会」を開いている。地域の元気な高齢者10名近くが参加され、かご作り等の制作活動と昼食会の内容で3時間あまり楽しい交流の場となっている。	地域の情報の把握に努め、文化祭や清掃活動等に参加し、「おうちごはん会」を毎月開催して地域の高齢者との交流を図っている。法人主催の夏祭りには多くの住民の参加があり、日頃の散歩や買い物時の会話や中学生の職場体験、日常的に農産物を頂く等、円滑な交流がされている。また、市の「まちかど相談所」になっており、認知症サポーター養成講座も開催している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	事業所は霧島市のまちかど相談所となっている。認知症サポーター養成講座や地域支援のための協議体へ参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居、退居、入院、要介護度の報告、ひやりはっと事故報告、活動報告、事業所の課題をあげ、意見交換する場となっている。そこでの意見はサービスに活かされている。	会議は、家族、民生委員、住民代表、市福祉課職員等が参加して定期的に開催し、利用者の状況や行事計画、ヒヤリハット等を報告している。市職員から各制度の説明があり、委員からは地域の情報や災害発生時の対応への意見等が出されている。職員は内容を会議録で共有し、職員会議等で協議してサービスの改善を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回の運営推進会議に市職員が出席している。市主催の研修、行事等への参加により管理者と市担当者と顔の見える関係を築き、相談報告をスムーズに行えている。	市の担当者には、運営推進会議に出席してもらい、ホームの状況を把握してもらっている。電話や訪問で、介護保険の更新や利用者のケアやホームの運営、各制度の相談を行って助言・指導を頂く等、かねてより協力関係を築いている。行政主催の会合や研修会にも参加して意見や情報の交換を行い、サービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本、日中玄関の施錠はしていないが、利用者が興奮状態で外に出ようとする時や、職員が付き添えないやむおえない時にその日の出勤者で話し合い施錠をすることがある。施錠の判断と時間は記録に残している。令和元年度3回あり。	身体拘束に関しては運営規定や重要事項、利用契約書に明記し、法人による研修の実施や日頃の言葉づかいやケアの振り返り、具体的事例による意見交換を行って認識を共有している。日中は施錠しないで、離床センサーやフットセンサー等も活用しながら見守り等に努めて安全を図り、外出したがる利用者には対話や散歩に同行するなど、自由な暮らしの支援に取り組んでいる	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で高齢者虐待防止の勉強会を年1回実施している。介護拒否、不適切な声掛け等は管理者がその都度指導するようにしている。また、申し送り等で不適切なケアについての振り返りをする場を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護受給者3名が入居している。うち2人が日常生活自立支援事業を受けている。その1人は家族の支援が困難。事業所だけでは解決できずに関係者に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学から契約締結までを管理者が行うことで信頼関係を築けるようにしている。契約時に解約の条件を丁寧に説明することで今のところ解約に至った時のトラブルはない。改定等は文書で行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回ご家族参加の行事を行い、職員と顔なじみの関係づくりに努めている。また、毎月担当より近況報告の写真付きお手紙を出すことにより、面会時に話しやすい雰囲気づくりに努め要望を表しやすい関係づくりをしている。	利用者の想いは、日頃のケアの中での対話や表情、仕草等から理解に努め、家族からの意見、要望は面会や電話、運営推進会議時の会話、また、近況を伝える写真やお便りを送付する等、工夫して把握している。出された意見は、申し送りや職員会議等で協議して運営やサービスの改善に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	直接面談希望者は代表者と面談する機会がある。管理者は日々の業務、午前午後2回の申し送りの中で意見要望を聞き、代表者に報告し反映させるようにしている。	管理者は日頃からコミュニケーションに努めて意見や要望を把握し、協議しながら改善を図っている。代表者会議で法人の他事業所との情報を共有し、日頃から業務への助言指導や研修の実施に努め、個人的事情にも配慮して勤務シフトを作成する等、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。職員は2ユニットでの勤務シフトで全利用者の状況を共有しており、協力体制や信頼関係を構築している。外部研修時の受講料助成や給与体系が構築されて、職員の意欲向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自己評価人事考課を実施している。30代から70代の職員がいる中、能力に応じて力を発揮できるように就業時間、業務内容を能力に合わせて臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入居者様に必要な介護技術の習得はその都度管理者、主任、看護師等が指導している。外部研修は個々の資質に合わせて必要と思われる研修を提案し職員が了解し参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>平成30年度までは地域の事業所との交流を行っていたが、令和元年度は退職者の関係で人員に余裕なく、交流会の時間がとれずに実施できなかった。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込み時の施設見学は基本ご本人も来ていただき説明するようにご家族にお願いしている。また、担当ケアマネと連携を取り必要な情報を聴きだすように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望に至った経緯を丁寧に傾聴している。また、施設でできること、ご家族にお願いしなければならないことを初めにご説明することでご家族の役割を認識して頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がその時必要と思われている支援が、事業所でできないことがあれば丁寧に理由を説明している。グループホーム以外の選択肢もご提案させて頂くこともある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	開設以来、食事、お茶を職員は入居者と同じテーブルに着き同じものを食べて一緒に過ごしている。テーブル拭き、洗濯物たたみ、茶わん洗い等出来る入居者をお願いすることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の多くはご家族の面会を楽しみにされており、ご家族にはそのことを伝えている。また、お手紙を出したり、ご家族より頂いたり、面会以外でも家族とのつながりを持てるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人と馴染みの人や場所との関係は施設の生活の中で話題にするようには努めている。また、友人が来て下さる方もおられ、さりげなく職員が関わり会話やお茶を楽しんで頂いている。	入所時のアセスメントや日頃の会話、家族からの情報等で利用者毎の馴染みに関する情報を共有し、心身の状態や意向に配慮しながら散歩や買い物、通院、外食、地域行事の参加、美容室等に家族の協力を得ながら出かけている。家族、友人等の来訪時には、ゆっくり面談出来るように配慮し、電話・手紙の取り次ぎや園便り、写真を添えた手紙で近況を伝える等、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合い、支え合える支援は課題。相性の悪い方は接触しないようにテーブル席を配慮している。会話のずれは職員が中に入り良い関係を保つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の行き先が協力病院や法人内の特養の場合は面会に行っている。ご家族より相談があった場合には支援しているが、事業所より連絡を取るような支援は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の病識がない方が自宅での生活を希望されている。その思いは家族、職員と共有し手紙や面会、外出の支援等を検討し支援を行っている。	利用者の思いを、日頃の会話や表情、サイン等で丁寧に把握し、理念に沿った平穏な暮らしの支援を家族と連携して取り組んでいる。全員での活動に加え、利用者が希望する趣味（漢字や数字のパズル、タブレット使用他）や家事（食材の下処理やテーブル拭き他）の取り組みも、心身の状況に配慮しながら個別に支援しており、それらの成果には感謝や評価の言葉掛けで達成感が得られるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時にご本人や家族から生活歴や現在利用しているサービスに至った経緯を伺い、情報をまとめ職員が情報共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体能力は把握しやすいが、ストレスや精神状態の把握はわかりづらい。日課以外の活動に関しては意欲の低下がみられる方へ興味があることを見つけ支援することまでは出来ていない。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に主治医に報告相談している。主治医の見解は家族や職員に伝えた上で意見を尋ね反映させるように努めている。モニタリングに関してはケース記録や申し送り状態で状態を把握して次の介護計画書に反映させている。	本人・家族の意向を把握し、主治医の指示や日頃のケアの状況、モニタリングでの職員の意見等を基に、生きがいにも着目した利用者主体の介護計画を作成している。支援の状況は「介護日誌」や「1日のチェック表」等で共有し、利用者の状況変化に応じて計画の見直しと修正を行って改善に努めている。計画の内容は家族にも説明し理解を得て支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はもちろん、午前午後1日2回申し送り行い職員間で情報共有し、職員が休みの日の情報は介護日誌を確認してもらっている。また、その日の申し送りで対応策を話し合い直ぐに実行できることは対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なニーズで今までに事例がない事はご本人やご家族と相談しながら検討している。家族付き添いなしでの病院受診、買い物支援等臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の保育園の慰問、ボランティアの受け入れ、地域の行事にお連れするなどの機会がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院に往診をお願いできることをご本人と家族にお伝えして希望があれば、かかりつけ医を協力医院へ変更されている。協力医院と連携をとり適切な医療につなげている。	かかりつけ医は本人及び家族が希望する医療機関での受診を支援しているが、利用者の殆んどが協力医療機関を主治医としている。利用者の状況により、訪問診療が定期的実施され、通院及び他科受診時の同行は原則家族の対応としているが、家族が不都合な場合はホームで支援している。日頃から看護師が主となって利用者の衛生や健康管理を徹底し、家族とは密に連携を図っている。協力医療機関との医療連携体制も構築して適切な医療を受けられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師は日勤帯に1名配置されている。看護師と24時間、連絡可能な体制をとっている。職員の情報をもとに管理者と看護師が連携をとり家族、医師に相談しながら受診につなげている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時の情報提供はもちろん、治療計画や治療中の経過を共有しながらご家族や病院関係者と連携をとっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針は入居時に看取りの体制がない事を説明し要介護4以上になった時、入院の必要性や特養の転居を検討して頂くことがあることを説明している。</p>	<p>重度化や終末期のホームの対応については、入所時に本人及び家族にも説明して理解を得ている。看取りの対応は実施していないが、利用者の状況変化に応じて意向等を確認し、概ね介護度4になる頃から病状の説明に併せて、終末期を想定した選択肢等を家族に紹介し、話し合いながら不安の軽減に努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時の備えはマニュアル化してある。すべての職員へ初期対応の訓練は実施していない。リーダーになる職員には経験上実践力が身につけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災避難訓練は年2回実施。建物より外への避難誘導訓練を行っている。以外の災害時の避難方法は施設内待機としている。運営推進会議を利用し地域の代表とは災害時の対応の意見交換を行っている。</p>	<p>年2回夜間を含む火災発生を想定した避難訓練を実施し、併せて通報装置や消火器の取り扱い等の研修も行っている。停電や不審者対応を想定した自主訓練を実施し、日頃から避難経路や通報等の確認に努め、災害報道も話題にして防災への意識を共有している。スプリンクラーや火災通報装置、防犯カメラ、センサーライトが設置され、懐中電灯、ラジオ、卓上コンロ、サスマタ等を備えており、水や食料品も法人本部及びホームで備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を把握してその方を否定しない支援を心掛けている。親しみをもって職員が入居者に接するあまり馴れ合いになり不適切な態度になっていると感じたときは管理者がその場で指摘するようにしている。	プライバシーの保護や個人情報の取扱いについては研修の実施で理解を共有しており、尊厳や誇りを傷つけるような言動を行うことのないように常に留意している。不適切な言葉やケアに対しては、その都度改善を図り、特に衣服交換、入浴や排泄時の支援には羞恥心にも配慮している。ホームはプライバシー保護に配慮された構造で、園便り等への氏名や写真の掲載についても事前に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	下剤調整や衣類選び等の希望等確認できる方には自己決定できるように支援している。意向を表せない方には表情の良し悪しで意向の確認をしながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に沿った生活の中で、入浴拒否や活動拒否があった場合は無理強いせず様子を見ている。今日お風呂に入りたい、今日髪を切りたい等の訴え時、できない時は事情を丁寧に説明している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類はご家族が準備している。好きな色、帽子が好きな方、短い髪形が嫌いな方等そのひとのこだわりを把握するようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者の好みを把握して提供している。作る楽しみはレクレーションとしておはぎ作りをすることがある。食事のメニュー決めや台拭き、茶碗洗いを手伝ってもらうことはある。	日常の会話から希望をくみ取り、頂いた野菜等も活用しながら、栄養バランスや形態、代替食、盛り付けなど食事が楽しみとなるよう工夫し、職員も一緒に歓談しながら食事している。おせちや敬老会、クリスマス等の行事食や誕生日の希望食、月1回の刺身、家族との会食や外食等も実施し、利用者も食材の下処理やテーブル拭き等を行っている。口腔ケアもケアプランに添って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を実施し体重の増減をみながら食事の量を検討している。ごはんは計量して毎日決められた量を提供している。水分は1日1000ccを目標に促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは職員が関わり実施できている。月1回は歯科の往診をお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を付けて排泄パターンを把握している。尿意、便意が曖昧な方は排泄パターンでのトイレ誘導を実施し失敗を減らすように努めている。(日中のオムツ使用者は1名のみ)	利用者毎の排泄パターンをチェック表で把握し、見守りや声かけに配慮しながら可能な限りトイレでの排泄を支援している。一人一人の状況に応じたケアの方法や介護用品を介護計画に反映させて改善に取り組んでおり、おむつ使用量の軽減などが見られている。便秘予防に乳製品や水分の摂取、運動量に配慮し主治医の指示も得ながら改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、きな粉牛乳かヤクルトを提供している。便秘症の方にはヨーグルトやオリゴ糖を提供し便秘解消に取り組んでいる。水分摂取や運動も促すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週3回個々に曜日を決めて支援している。入浴の希望時間の申し出は今のところないが、入浴を拒否される方への支援が課題。	利用者の心身の状態に配慮し、シャワー浴や清拭への変更も行いながら、基本週3回の入浴をゆっくり楽しめるように支援している。排泄の失敗等で汚染した場合は直ちに清拭やシャワーで清潔を保ち、状態によりリフト浴も実施しており、入浴時間や温度、同性介助等は柔軟に対応している。入浴をためらう場合には、時間及び職員の変更や声かけ等を工夫して、利用者が主体的意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日当たりのいい場所に椅子を置き日向ぼっこができるようにしている。夜はポータブルトイレを使用したり、失禁で不快にならないように尿量に合わせた尿とりパッドを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師より、介護職に個々の指示薬の内容、薬の目的を伝えている。薬は一包化し、袋の記載事項を読み上げ本人確認を行い対応している。また、服薬チェック表に配薬職員サインを残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割は洗濯物たたみ、お茶の葉の袋づめ、台拭き等少数の方が担っている。また、お一人お一人の誕生日ごとに昼食会があり、歌や踊りが好きな方が楽しめるように余興を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者に花見ドライブや初詣、買い物、地域のイベント等の外出支援をしている。家族の外出支援はお盆とお正月、お墓参り、外食などで1名のみ。家族と過ごす時間は面会が中心になっている。	利用者の心身の状態や天候を考慮しながら、日常的に園庭及び周辺の散歩や日光浴、通院等に出かけている。墓参りや一時帰宅、外食等の外出は家族の協力を得ながら取り組み、また、初詣や季節ごとの花見、ドライブ、地域のイベント（文化祭他）の見物など、全員での外出も計画的に実施しており、利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1号館入居者の方でお金を所持している方はいない。2名の方が支払いの心配をされるがお金を持っている事への不安とお金が無くなってしまった不安と両方があり、お金の管理は困難と判断。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	事業所として毎月写真入りの近況報告を出しており、家族より毎月様子が知れて安心しているとの声があった。また、週2回入居者にFAXの手紙を送る家族がおられ、一緒に読む支援を続けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日なたに椅子を置いたり、棚で仕切りをしたり居心地のいい空間作りを心がけている。食事テーブル席は個々に決めており、自席があることで安心感を持たれている。また、テーブルとテーブルの間の空間も車いすが2台通れる幅を確保し、安全に移動できるようにしている。	余裕のある廊下やホールは回廊式になっており、中庭も設置されて明るく開放感に満ち、随所に花鉢や利用者の作品、祭りに使用した大きな絵画等が飾られて和やかな雰囲気である。テーブルやテレビ、ソファ等が利用者の利便性や対人関係に配慮して設置され、清掃や空調、衛生管理等が徹底されており、利用者は好みの場所で四季を感じながら平穏に過ごしている。2つのユニットはホールで対照的に作られ、仕切りも殆んど外してあるため、利用者及び職員は一体的に行動して交流を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席は車いすでスムーズに出入りでき、相性の良い人と同席されているので結果ストレスなく居れる場所となっている。また、玄関横の窓、廊下に置かれたソファや中庭周囲のテーブルとイスは独りでくつろげる場所になっていて、いつも利用される方がいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に花を飾ったり、家族の写真や飾り、時計を目線の高さに飾ったり工夫している。また、衣類の整理がしやすいように引き出しにラベルを貼っている。	フローリングに掃出し窓の居室は明るく余裕があり、ベッドやエアコン、クローゼット、ナースコール等が備えられ、また、自室を戸惑う利用者の入口には確認できるように名前の表示や写真、飾りを付けるなど工夫されている。利用者の意向に沿って清掃や空調等を支援し、利用者は使い慣れた寝具やテレビ、家族写真、衣装ケース等を持ち込み、また、自身の作品や長寿祝いの色紙等も飾って、その人らしい和やかな雰囲気となっている。状態に応じて離床センサー等も活用して安全を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	ベッドの高さや車いすを置く位置を、個々の身体レベルに応じて検討し、安全に自力で移動できるようにしている。また、テーブルや椅子の高さも個々に合わせ、良い姿勢で食事をとり、ムセや食べこぼしを防いでいる。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない